

# 第1章 三浦市のすがた



三浦市全景（三浦市所有）



城ヶ島と三崎港（三浦市所有）



三浦海岸（三浦市所有）



江奈湾と劔崎灯台（三浦市所有）

# 1 三浦市の自然

## (1) 三浦市の位置

### 首都圏に位置する三浦市

わたしたちの住む三浦市は、日本の中央部、その太平洋岸の神奈川県南東部にあり、東京湾と相模湾を分ける三浦半島の南端に位置しています。三方を海に囲まれ、その南には城ヶ島があります。



(編集委員作成)

北は、横須賀市と接し、東には、東京湾をはさんで房総半島が、西には、相模湾をへだてて富士、箱根の山々や伊豆半島がのぞめます。南には、大島などの伊豆諸島の連なる太平洋が広がっています。

(編集委員作成)



地球上の位置でいえば、東経 139° 37'、北緯 35° 08' (三浦市役所) にあり、北半球中緯度地方、アジア州の東のはずれに位置しています。裏側は、南アメリカ大陸のウルグアイの沖付近になります。

また、南北、東西をたどると、北は、横浜、東京をへて、日光が同じ経度であり、西に向かうと、湯河原から名古屋、びわこ琵琶湖が同じ緯度にならんでいま

(編集委員作成)

す。

市の面積は、約 31k m<sup>2</sup>で、県下 33 市町村のなかで 19 番目の比較的小さな市です。令和 2 (2020) 年の県勢要覧によると、人口は約 4 万 2 千人、人口密度は、1326 人/k m<sup>2</sup>で、人口密度の高い神奈川県の中では、人口も少なく人口密度も低い市です。



神奈川県各都市の面積、人口、人口密度(県勢要覧2020)

	面積2020年 (km <sup>2</sup> )	人口2020年 (千人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
横浜市	438	3749	8567
川崎市	143	1530	10702
相模原市	329	723	2198
横須賀市	101	394	3907
平塚市	68*	258	3800
鎌倉市	40	172	4342
藤沢市	70	435	6247
小田原市	114	190	1670
茅ヶ崎市	36*	242	6776
逗子市	17	57	3295
<b>三浦市</b>	<b>32</b>	<b>42</b>	<b>1326</b>
秦野市	104	165	1591
厚木市	94	225	2394
大和市	27	237	8765
伊勢原市	56	102	1838
海老名市	27	134	5028
座間市	18	131	7434
南足柄市	77	42	542
綾瀬市	22	85	3811
県計	2417	9200	3808

(\*)は数値は境界が未定のため参考値である。

(編集委員作成)

三浦市は、世界的にも有数の人口集中地域である首都圏内に位置し(都心から約 60km、横浜から約 30km)、都心とは電車で約 1 時 10 分、横浜とは約 50 分、自動車でも 2 時間程度の距離にあります。しかも、豊かな自然や、景観が、まだまだ残っている地域です。このことは、三浦市の産業や人の動きに、大きな影響を与えており、これからの三浦市を考えるうえでも、たいへん重要な要素となっています。

## (2) 三浦市の地形

### 美しい海岸線

三浦市は、三方を海で囲まれています。市のほぼ中央にある引橋の台地に立って、周囲を見わたしてみると、広く続く台地と、それを取り囲んでいるような海がながめられます。海岸線は、砂浜や磯、入江と、たいへん複雑で、その長さは約 42.9km あります。

三浦半島は、全体として隆起の激しいところです。半島南部にある三浦市の海岸には、ここ数千年の間に、海岸が隆起し、かつての海底が、何段にもなって、海岸段丘を作っており、そのような隆起海食台<sup>①</sup>の地形海岸を作っています。



諸磯の隆起海岸（編集委員撮影）

谷戸の隆起、地殻変動のたびに波や潮の流れでけずられ、何段もの段丘になっている。それぞれの段丘に貝の住みかかのが見られる。



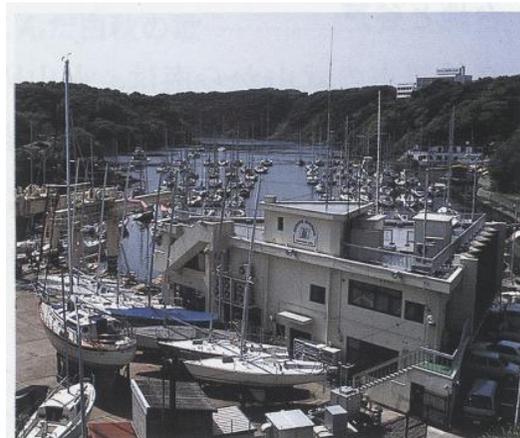
蓮根<sup>れんこん</sup>（波調層・編集委員撮影）

海底に堆積した泥や砂が一定方向の底流で転動<sup>てんどう</sup>（ころがりながら動くこと）していた時、転動部分に生じるうずによってこの様な地層がで

①隆起海食台 地震などで盛り上がったところが、波や潮の流れでけずり取られた、台地の端の地形。

半島の南端にある三崎港は、城ヶ島を自然の防波堤として、栄えてきました。また、南部の海岸は、海岸線の入りくんだところが多く、リアス海岸となっています。南下浦の金田から、松輪、毘沙門にかけては、沿岸漁業の漁港になっており、油壺湾周辺は、漁船の避難港として、利用されたり、ヨットハーバーとして、にぎわっています。

砂浜海岸は、市の北半分の海岸線に見られます。とくに、東京湾側の三浦海岸は、南下浦町菊名から横須賀市久里浜の千駄が崎<sup>せんだがさき</sup>まで続く、長い砂浜となっており、三浦半島を代表する砂浜海岸です。三浦海岸や三戸、長浜海岸<sup>なはま</sup>には、多くの海水浴客が訪れています。



油壺ヨットハーバー

(編集委員撮影)



三浦海岸から千駄が崎を見通して  
(三浦市所有)



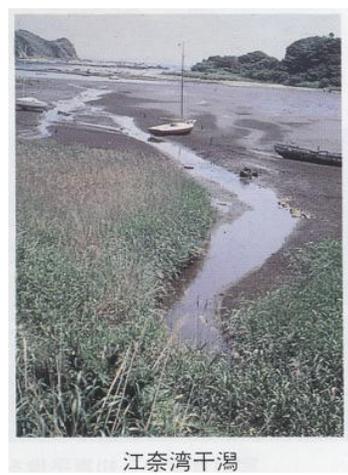
三崎の「うらり」

(編集委員撮影)



入江の埋立地

(三浦市撮影)



江奈湾干潟

(三浦市撮影)

城ヶ島や三崎港、初声町入江などでは、海岸の埋め立ても行われてきました。港の整備や工場誘致<sup>ゆうち</sup>、農地造成が目的でしたが、入江では、埋立地に住宅や高校、ホームセンターなどが建設されました。

## 台地と谷戸

横須賀市の武山から南は、火山灰層(関東ローム)におおわれた海拔約50mくらいの台地が、半島の南の端まで広く続いています。

市の北部にある台地は、宮田台地と呼ばれています。その西側は一段低くなっており、市内で一番広い初声の平地が広がっています。

市の中央部は、引橋丘陵と呼ばれ、狭くて深い谷が半島の中心までせまり、海拔約80mくらいの高さになっています。そして、その南端は、低い台地となって城ヶ島まで続いています。

三浦市全体を見ると、半島の中央部に広い台地が広がり、海岸からのびる狭い平地(谷戸<sup>やと</sup>)が入りくんでいる地形です。台地は、畑作農業に利用され、台地の下の平地や谷戸に民家が建っています。かつては、平地や谷戸に、谷戸田<sup>やとだ</sup>といわれる農家の自家用米程度の水田もありましたが、今では、宅地や畑地に変えられ、ほとんど残っていません。また、三浦海岸周辺や、三崎口のように、大規模な住宅地になってきているところも増えてきました。



宮田台地から初声平地を見て

三浦海岸駅周辺の様子

(編集委員撮影)



(編集委員撮影)

### 三崎の地名を詠みこんだ白秋の歌

明治・大正にかけて活躍し、詩人、歌人としてすぐれた業績を残した北原白秋<sup>きたはらはくしゅう</sup>を、わたしたちは「城ヶ島の雨」という歌でよく知っているつもりですが、白秋の歌集「雲母集」<sup>きららしゅう</sup>〈アルス刊〉にある三崎の地名を詠みこんだ歌はあまり知りません。約80年前の三崎を白秋の歌でしのぶことにしましょう。

城ヶ島の白百合の花大きければ

仰ぎてぞあらむあそびの舟は

寂しさに油壺から小網代へ

歩みかへせど晝ふかみかも

相模のや三浦三崎は誰びとも

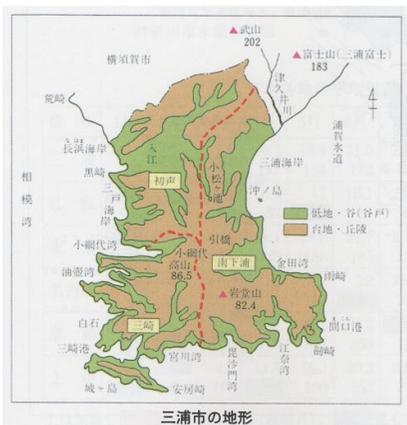
不盡を忘れて仰がぬところ

深々と人間笑ふ聲すなり

谷一面の白百合の花

石崖に子ども七人腰かけて

河豚を釣り居り夕焼小焼



(編集委員作成)



(編集委員作成)

### (3) 三浦市の気候と動植物

#### 暖かく、すごしやすい気候

三浦市は、日本全体の気候区分では、太平洋岸気候区に属しています。春から夏にかけて、湿った南東の風が吹き、秋から冬にかけては、晴天が続き、乾燥した北西の風が吹きます。また、三方が海で囲まれ、黒潮の影響を強く受けるため、同じ緯度の他地域に比べて温暖で、気温差が少ないなどの特徴があり、このことが市民の生活にもいろいろと影響を与えています。とくに、市南部の台地の下に位置する<sup>つるぎざき</sup> 劔崎・<sup>びしゃもん</sup> 毘沙門・三崎などを冬に訪れる人々は、その温暖な気候に驚かされます。

気温で見ると、三浦市の年平均気温は、平成 26 年気象庁のホームページによると、16.2℃です。東京や、三浦市と同じくらいの緯度にある名古屋市などと、あまり変わりありません。

しかし、冬 1 月の平均気温では、三浦市は、東京、名古屋より高くなります。一方、8 月の平均気温では、東京、名古屋より低く、冬暖かく、夏はあまり気温が上がらず、すごしやすい気候であることがわかります。

三浦市各地でも、気温の差は見られます。冬の等温線は、北から南へ順に高くなり、引橋を境に、雨が雪に変わったり、霧が発生したりすることもよくあります。

降水量は、年間 1000～2000mm くらいあり、県内では、比較的雨の少ない地域です。県の東部には、高い山並みがなく、箱根、丹沢などの高い山のある県西部ほど、降水量は多くなりません。

三浦市は、強い風が吹くことでも知られています。また、真冬の西風が強いのも有名で、いくどかの三崎の冬の大火も、この風が大きな影響を与えており、市民の火災防止の関心も高いものがあります。

## 日本各地の平均気温、降水量(2016～2020年の平均)

都市	分類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
三浦	気温	7.1	7.8	10.7	14.7	19.1	21.7	25.0	27.2	23.9	18.7	13.9	9.4
	降水量	58.2	38.5	146.2	128.5	114.7	195.6	191.6	95.6	249.0	219.8	75.5	54.1
札幌	気温	-3.1	-2.6	2.3	7.7	14.4	16.9	21.6	22.5	19.1	12.3	4.6	-1.3
	降水量	76.7	79.9	79.6	48.7	47.8	109.0	87.5	170.9	101.1	108.4	102.5	91.7
東京	気温	5.9	7.0	10.3	14.7	19.9	22.4	25.9	27.8	23.9	18.3	12.9	8.0
	降水量	62.1	29.9	131.4	147.6	118.1	174.8	146.6	162.7	235.2	284.8	84.0	46.5
名古屋	気温	5.4	6.1	10.2	14.9	20.4	23.3	27.1	29.1	24.9	19.0	13.1	7.6
	降水量	38.1	48.0	123.4	160.0	148.8	189.4	255.3	137.3	208.2	262.3	44.8	54.3
那覇	気温	18.0	17.9	19.4	21.7	24.9	27.5	29.2	29.4	28.3	26.1	23.1	19.6
	降水量	118.9	98.3	150.3	147.9	246.3	382.5	246.2	230.7	314.0	205.6	116.0	115.9
長岡	気温	2.3	2.5	6.2	11.4	18.1	21.3	25.6	27.0	22.6	16.3	9.7	4.6
	降水量	318.9	175.4	118.0	120.3	90.4	121.3	223.6	178.7	170.8	170.3	241.8	353.4

上は気温℃[   最も暖かい月(最暖月)   最も寒い月(最寒月)]  
 下は降水量mm[   最も多い月   最も少ない月]

気象庁 HP より  
(編集委員作成)

### 風を読む=海に生きる人々の知恵

三方を海で囲まれた三浦市では、昔から漁<sup>りょう</sup>を中心とした海とのかかわりが、暮らしのなかの大きな位置をしめ、天候を読み、風や波のようすを知る(“陽気をつかむ”)ことが、生命や暮らしにかかわるたいへん重要なこととされてきました。

“雲行き”を見、“ナモト”(波もと=海面のうねり)をながめて“オンデ”(沖出)の陽気(天候)かどうかを判断することから1日が始まったのです。

- 冬の“ナライ”(北風)(三浦市では“ナレイ”と発音していることが多いようです。)は天候安定。
- 夏は、朝そよそよ“ナレイ”(北風)、昼は“ナギ”(風)、午後に海から“ミナミ”(南風)がくれば陽気は“デイジョウブ”(大丈夫)!
- 台風のと看、風が“イナサ”(南東風)に“タテカエシ”(切りかわる)になると、高潮高波で大変危険。風向きも変わっていくので島陰に入っても危険になります。
- “シンの雲(上層の雲)がイレ雲(房総半島から三浦半島に入ってくる雲)”になると陽気は悪くなります。

○ 4～5月の“ヨーイレミナミ”（宵入れ南？）は、漁には絶好の陽気。朝は、北風で沖に出、“ナギ”（風）がきたあと午後の南東の風によって帰ってきます。もし、陽気を見誤ると、風にのれなくなり、夜になっても帰れなくなってしまいます。…昔は風で船を動かしました。

サヨリなど風が吹いていないと出てこない魚もあり、この風を利用して漁をしました。

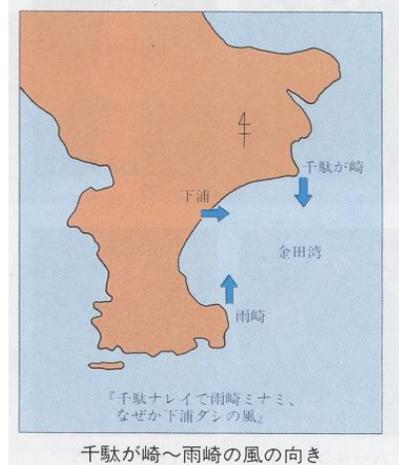
○ 秋口から春先にかけて、“あかんぼナレイは背戸から吹く”という言い回しがあります。天気はいいが砂塵を巻き上げ空も赤くなるような“ナレイ”（北風）が吹くという、北風の強い冬の晴天を表していますが、一方で、この言葉は、風の吹き込んでくる北側の陸地を背戸（うら口）にとらえ、海を正面にとらえている三浦半島の人々の海の暮らしの意識も表しているようです。

○ “千駄ナレイで雨崎ミナミ、なぜか下浦ダシの風（丘から海へ出ていく風）”という言葉もあります。小さな地域のなかでもずいぶん風向きの違うことを表しています。

最近では、テレビの天気予報や天気図にたよるのが普通になっていますが、昔は、富士山の雲、大島の噴煙、沖を通る汽船の煙などでも、風を見、陽気を読んでいたそうです。

この話をしてくれた藤平吉松さんのおじいさんなどは、夜中の2時から3時に起き、真っ暗な海を見つめながら海の“ナリ”（鳴り）をきいて、陽気を判断したそうですが、今では、そんなことを知っている人も少なくなったようです。

（この文章は、三崎二町谷の藤平吉松さんと、元南下浦中学校長の太古益男さんにかがった話をまとめたものです。）





ます。これからは、三浦に残された貴重な自然を生かしながら、自然との共生をめざした市民生活を考えていく必要があります。

### 「子どもたちに残したい自然」市内主婦Kさんの意見

三浦半島の先端近く、相模湾に面して幾つかならぶおぼれ谷のなかで、一番大きな湾が小網代湾。そして、その湾奥に広がる東西1.2km、南北0.8km、およそ100haの緑深い集水域が小網代の森です。小網代には、アカテガニ・その他のカニの集団繁殖地もあり、たくさん生き物がいて、森と、干潟と、海が自然の状態でセットになって残っているのは、関東地方では、もはや、ここだけといわれています。今から30～40年前なら、日本中どこでも見られた風景です。

私が育ったころの三浦は、玄関を出たらもうそこは子どもたちの冒険の世界でした。舗装されていない道をカニが横切り、亀がノソノソと歩き、野うさぎの穴もありました。しかし、そんな体験の場も、さがし求める時代を迎えました。自然を紹介する映像も本もすばらしいものがたくさんありますが、子どもたちがとんぼの羽化に拍手をし、アカテガニの放仔に息をのむ瞬間を、実体験できる場として、子どもたちの心を育てる場として、小網代の森が残ってほしいと願っています。

小網代の森には、わかっているだけでも350種の植物、26種のカニ、21種のトンボ、60種以上の鳥など、貴重な動植物が生息しています。1990年8月の国際生態学会で、小網代の森を訪れた各国の学者の方々も、一様にこの森の貴重さを評価されています。

子どもたちは、自然のなかでこそ、自然のすばらしさや厳しさ、そして、生命の尊さを目を輝かせて学んでいくことと思います。

私たちは、自然観察会と浜掃除をセットにして行いながら、市や県、さらには、国にも協力してもらいながら、森の保全ができるよう、運動を広げていきたいと思っています。